

2015年5月1日

# よしたけ 八福神めぐり

四月一八日土曜日、春のうらかな天候に恵まれて、「よしたけ八福神巡り」が行われました。吉留に古くからある神社を歩いて参拝するという、地域おこし事業の一環です。

吉武地区コミュニティと八之会(地域おこし団体)が共同で主催して行われました。

事前に申し込みをした一七〇人と五〇人を超えるスタッフが集まりました。受付を済ませて、会員手づくりの根っこの部分のついた竹の杖と、御朱印帳とおむすび二個をいただき出発点の八所宮へ。ここから順に8箇所の神社を歩いて回る九キロメートルのウォーキングです。



神社の中には、本殿まで急な階段を上って行かなければならない場所や、次の神社まで歩く距離が長く、なかなか大変な箇所もありましたが、ところどころに置かれた案内板の墨書の文字がやさしく、ユーモアがあふれる言葉で書かれて、疲れた身体も癒されます。木々に囲まれた山道では頭上から驚うぐいすの音が聞こえたり、樹木に囲まれた緑色の池の傍を歩いたり、宗像市内でも特に自然が多く残されていると言われる吉留地域を歩いて、心も体も癒されました。



上：受付を済ませ、現人神社へ。御朱印帳、杖、おむすびを手に歩く。  
右上：参加者の安全を願って祈願祭が拜殿で行われた。  
：参加者に渡す御朱印帳と杖もお蔵いを受ける。



宗像にもこんなに自然が残されている事を実感できた1日となりました。

## 1. 現人神社 あらひと

目、耳、肩、手足などの病気を治す神様。記帳をすませて次の安座神社へ。(写真下)



## 2. 安座神社 あんざ

安ノ倉の地名の元となった神社。(写真下)



## 3. 豊日神社 とよひ

食物の神様。



## 4. 妙見神社 みょうけん

高天原に最初にあらわれた神様。神仏習合により「妙見さん」と親しまれるようになった。(写真下)



鉄分を含んだ茶色の滝・落差4メートルの妙見の滝がある。

## 5. 豊日神社 とよひ

コースの中で一番の難所である。急な石段を随分のぼらなければならなかった。(写真下)



地元では「豊前坊様」とよんでいる。古くは修験者の道でもあった。

## 6. 菅原神社 すがわら

祭神は菅原道真。「ヲンガミ」などとよばれていたが、天神(菅原)に改めた。(写真下)



上：神社の傍にある農家の納屋(なや)には、いろいろな形をした農作業の機(くわ)がかけられてあった。

下：こいのぼりが泳いでいる道を下って平山天満宮へ。

## 7. 平山天満宮 ひらやまてんまんぐう

祭神は菅原道真。宗像大宮司・氏能が建立。社殿は宗像市指定文化財。鳥居の傍には福岡県指定天然記念物の大クスがある。

宗像市東部の山あいにある吉武地区。普段は農道を歩く人の姿もまばらな静かな地域である。

う。今もその面影が残る道。街道を行きかう人や、地域の水飲み場として、祭神・水速女神が祀られている。八福神めぐりの最後の神社。



上：神社境内の木陰で休息をとり、出発点へ戻る。  
右：水神社拝殿



江戸時代には参勤交代の行列が通った道・唐津街道中筋往還ともい

## 8. 水神社



右：平山天満宮本殿  
左上：お参りした後は、地域の方々による「おつかれさま」の声とお接待があり心がなごむ。  
左下：参道には八重桜があざやかに咲いていた。

八所宮の神様も大勢の人々が元気に里を歩く様子をご覧になり、喜ばれたのではないでしょう。秋には西回りコースが予定されています。お問い合わせは吉武地区コミュニティセンターへ。

（記事：むなかた電子博物館運営委員 平松）



ユウモアあふれる神様が描かれた手作りマップと御朱印帳、杖を手にして歩いた。



2015年5月15日

## 海の道むなかた館

## 日本人にかえれ

## 出光佐三展

出航の地・宗像から世界へ



平成27年3月24日から5月10日まで、海の道むなかた館に於いて、宗像で生まれ育ち世界を舞台に活躍した

故出光佐三氏（以下佐三氏という）の功績をたどる特別展が開催されました。期間中には大勢の来館者が訪れて、熱心にパネルに書かれた説明文を読む姿が見られ、好評の内に終了しました。

今年は生誕130周年に当たります。この特別展をふりかえり、あらためてその生涯と宗像とのつながりについて紹介します。

### 1. 「日本人にかえれ」

これは佐三氏の有名な言葉です。

現代は、「世界は一つに」とグローバル社会の様相を示す半面、環境破壊や、地域紛争など憂慮する問題が山積みです。このような現状において、日本人がこれまで大切にしてきた「互譲互助」の精神が必要で「日本人にかえれ」という氏の言葉は今、とても新鮮です。

宗像をこよなく愛し、自身の精神のよりどころとして守り続けた宗像の神。故郷宗像を誇りに思い、日本人として何をなすべきかを考え、世界を視野に活躍した生涯でした。百田尚樹氏の著書『海賊と呼ばれた男』の主人公は佐三氏をモデルにして書かれ、日本本屋大賞に選ばれた話題にもなりました。

展示場内では佐三氏が昭和56年に帰省した際、八所宮、緑風園、宗像大社参拝などの貴重な映像がテレビを使って、放映されました。

また、平成27年RKB制作の「出光佐三と宗像大社」は好評で、氏の功績をたどり、アナウンサーが赤間小学校や宗像大社などを取材した映像が放映され、椅子に座ってゆっくり視聴する方が多く見られました。

## 2. 故出光佐三氏略歴

氏は明治18年（1885）8月22日、宗像郡赤間村（現在の宗像市赤間）で藍間屋を営む商家の二男として生まれました。幼少期は身体も弱く母親を心配させました。

赤間小学校、東郷高等小学校、福岡商業高校へ進み、神戸高等商学校を卒業。酒井商会へ丁稚として入店し商業の基礎を身をもって学びました。他人に悪口を言われながらもこの時の経験が後の起業に役立つことになりました。

2年後、赤間に帰省した佐三氏は実家の衰退を目にして独立を決意、資産家・日田重太郎氏の援助を受けて明治44年（1911）25歳の時、北九州市門司で出光商会を開店しました。現在の出光興産の誕生です。その後2914年6月20日、出光興産は創業100年を迎えました。

### 出光佐三略歴

明治18年（1885）  
福岡県宗像郡赤間村で誕生  
明治42年（1909）23歳  
神戸高商を卒業。神戸で小麦と石油を扱う酒井商店に入店、経営哲学の基礎を学ぶ。  
明治44年（1911）25歳  
日田重太郎の援助を受け、門司市本町（現在の北九州市門司区）で出光商会を創業 日本石油の特約店として機械油を扱う  
昭和7年（1932）47歳  
門司商工会議所会頭に

昭和12年（1937）52歳  
貴族院議員に登院（貴族院が廃止されるまで議席を持つ）  
昭和15年（1940）55歳  
出光興産株式会社設立  
昭和17年（1942）57歳  
宗像神社復興期成会を結成、会長就任  
昭和28年（1953）68歳  
日章丸アバダン入港、イラン石油を初めて輸入  
昭和32年（1957）72歳  
徳山製油所竣工  
昭和47年（1972）87歳  
社長を退き店主に就任  
昭和51年（1976）91歳  
フランス文化勲章 コマンドール賞を受賞  
昭和53年（1978）93歳  
宗像町の名誉町民となる  
昭和56年（1981）95歳  
逝去

訃報に接し、昭和天皇が詠まれた歌

「出光佐三逝く 三月七日の歌」  
「国のため ひとつづらぬき尽くしたる  
みまた去りぬ さびしと思う」



上：唐津街道赤間宿の中ほどにある佐三の生家  
右：石造の案内板が片隅に置かれている

## 3. 佐三氏と宗像

元宗像市長であった瀧口凡夫氏は、西日本新聞東京支社勤務時代に、同郷の幼馴染を通じて佐三氏に直接会って話をしたことを、著書『出光佐三 魂の言葉』（2012.5.11）の中で次のように書いています。昭和30年代のはじめのことです。

序章 あるべき人間の姿を求めて―出光佐三に日本人の心を学ぶ  
ここに日本の風土の原形がある  
私が市長のころ宗像市内を中心に調査したら、この川はもとといり江で、西岸にはいまも残る肥沃な農地が広がっていた。台地には多くの古墳がある。宗像海人たちはここを根拠地にして沿岸漁業や大陸との交易、そしてたまには海賊働きなどをしていたものと思われる。

河口から1キロほど入った川べりと、その裏手の高台にかけて宗像大社の辺津宮へつぐうがあり、北へ向かう流れの正面に中津宮（大島）、その沖の孤島に沖津宮（沖ノ島）がある。それぞれ天照大神の御子 神（三女神）を祭り、合わせて宗像大社という。

宗像大社は、氏子である宗像の住民にとって、最も親しみやすく、かけがえのない尊崇の対象であり、古老たちは島全体がご神体である「沖ノ島」を口にするときには、いまでも必ず「さま」と敬称をつける。……

佐三さんの生家は商家で、いまでも旧唐津街道赤間宿の町並みの中にある。先祖はもともとと宇佐の出身で、宇佐神宮の神職だったという。宇佐神宮には宗像三女神が祭られており、宗像大社とは縁が深い。「お宮の関係で先祖

は宗像に移り住んだ」と私は佐三さんから聞いたことがある。

出光家は赤間宿の老舗で、四国の徳島から藍玉を仕入れ、福岡、久留米などまで販売を広げていた。しかし生活は質素で、宗像の風土、そこに住む農、漁民たちと相通じるところが多く、大社への尊崇の念と日常の生活のありようなど、まったく違和感はなかった。

## 4. 佐三氏の地域貢献

### ・宗像大社の復興運動

佐三氏が51歳、貴族院議員に選ばれた昭和12年（1937）、参拝のために宗像大社を訪れた際、驚きの光景を目のあたりにします。拝殿をみると、屋根は破れところどころにトタンが差してあります。また雨が漏り腐れかかった場所もあります。佐三氏が「どうしてあれを修理しませんか」と聞くと、宮司は「いや、この建物は国宝だから勝手に修理するわけにはいきません。予算もまだ通過していませんから」と答え、神社の由緒について説明しました。

幼いころ聞いたことのある話でしたが、宮司の話を変えて聞き、宗像三女神が国民の祖神であると気づいた佐三氏は「これは大変だ。早く元のお姿に戻さなければ」と考えるようになりました。

その後、昭和17年（1942）宗像神社再建のため、佐三氏が中心となり宗像神社復興期成会を結成、政府へ修理

のための予算獲得、勅祭社への昇格の建議などに取り掛かりました。

宗像神社は昭和44年(1969)に、宗像氏貞が再建して以来およそ400年ぶりとなる、昭和の大造営が行われ、昭和46年1月遷宮大祭が行われています。

その後、昭和52年(1977)宗教法人・宗像大社となり、平成26年(2014)、平成の遷宮が行われ、木々の緑に映える朱色が美しい、真新しい社殿になりました。



出光興産の本社はもちろん各施設には、宗像大社が建立され、工事の竣工の際には宗像大社から神職を招き神事を行っています。

・『宗像神社史』の刊行  
昭和36年(1961)上巻、昭和41年(1966)下巻、昭和46年(1971)附巻を刊行

・沖ノ島の学術調査  
宗像神社史』をまとめるにあたって、沖ノ島の調査が必要となり、昭和29年から三次にわたり専門家による調査を実施  
・『沖ノ島』の刊行 昭和33年(1958)  
・『純沖ノ島』昭和36年(1961)  
・『宗像沖ノ島』昭和62年(1977)

## 5. 館内の展示品

・タンカーの名称にある宗像の地名  
造船されたタンカーには「沖ノ嶋丸」「大島丸」「赤間丸」「玄海丸」など宗像の地名を船名にしています



右：ケースの中の「沖ノ嶋丸」150分の1の模型  
左上：ジに常時置かれたという船鐘  
左下：直筆の書が展示された「日本人」「人間尊重」「敬神愛人」

## 6. シアタールーム

出光興産が創業100年を記念して作成した「店主物語」。ナレーションは佐三氏の母・千代役として竹下景子



宗像町名誉町民章  
(昭和53年に当時の宗像町が佐三に送ったもの、未だ佐三1人)

んが担当しています。

出光興産が作成し保管するニュース映像から宗像に関連するものを集めた「出光ニュース」

「出光興産社員教育用映像」(抜粋)、当時の大社宮司・葦津嘉之氏が佐三について語った映像も。

以上の貴重な3種類の映像が上映され、椅子も足りなくなるほどの盛況でした。以上の貴重な3種類の映像が上映され、椅子も足りなくなるほどの盛況でした。

## 7. 入場者の感想

A氏…

唐津から来たという高齢の方

今、小さな店で出光の石油を売っている。父は門司の出光商会からの社員。戦時中はジャワへ行き終戦後に帰ってきた。私達は先に上海から船に乗り引き揚げてきたが、その後出た船は沈没したと聞く。家には佐三氏直筆の書がある。

B氏…

『海賊と呼ばれた男』を読んで、本物に触れてみたかった。

C氏…

店主は雲の上の人でした。(沖ノ嶋丸の模型を見ながら) 佐世保重工まで見学に行った。昔は4,500人の乗組員が動かし、今はコンピュータだから7,8人で操船する。階段まで実

物そっくりにできている。

D氏…

修学旅行で東京へ行った時、出光さんからお菓子が配られた。

E氏…

徳山工業高校の機械科の学生時代に。教室の窓から徳山湾に巨大な出光のタンカーが入ってくるのが見えた。

F氏…

出光佐三さんと宗像市の世界遺産登録推進活動が結び付くとは。今初めて知りました。

## 8. 結びのことば(パネル展示より)

佐三は「日本に生まれて最高に恵まれて育った」というのが口癖だったと言います。彼の思想の原点は、ここ宗像にあるといっても過言ではありません。

宗像の歴史や風土、人々の気質、自然豊かな景色など、私達が日常目にし、耳にしていることは、まるで空気のように日ごろ意識することなく、当たり前となっています。

佐三の思想や行動力をふりかえることで、あらためて宗像の素晴らしさに気づくことができましたのではないのでしょうか。

出光佐三の意思を引き継ぎ、先人が残してくれた資産を大切にしながら、宗像人として、日本人として世界に貢献する。この企画展がそのきっかけとなれば幸いです。

宗像市では平成27年度より、教育子ども部子ども育成課にグローバル人材



イベント会場・いせきんぐ宗像  
(田熊石畑遺跡歴史公園)

運営協議  
会、田熊山  
笠実行委  
員会、主管  
は、田熊石  
畑村づく  
りの会で  
す。地元

## いせきんぐ宗像 オープニングイベント

2015年10月14日

育成係が新設され、次世代を担う子ども達が、佐三氏のように世界を視野に活躍していくことを願っています。

開催期間中の入館者数は、およそ27000人。シアターの視聴者数はのべ4400人でした。

尚、本文は展示されたパネルの説明文および、むなかたタウンブレス(4月15日)より、参考、引用しています。  
(記事:むなかた電子博物館運営委員 平松)

7月19日 日曜日、真夏の厳しい暑さの中で、いせきんぐ宗像オープニングイベントが開催されました。いせきんぐ宗像とは、公募により選ばれた田熊石畑遺跡歴史公園の愛称で、遺跡の中の王様という意味が込められています。主催は宗像市、共催は東郷地区コミュニティ

ある東郷小学校は、全校生徒が参加してこのイベントを体験しました。

7月1日の歴史公園のオープンの伴って、今年は公園内で東郷地区恒例の夏祭り東郷、田熊山笠の行事が計画され、いせきんぐ宗像オープニングイベントの前夜祭として、「夏祭り東郷2015」が行われました。出店は25店舗、集まった人々はおおよそ6500人で、夜遅くまで会場はお祭りの熱気に包まれていました。

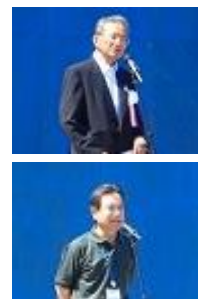


民俗衣装で踊るブータン国の子どもたち

国の子どもたちによる演舞が行われました。幸福度世界一という国からやってきた子どもたちには、宗像はどのように写ったのでしょうか。

オープニングセレモニーがはじまりました。主催者の挨拶に続いて楽しい楽器の演奏が行われました。

・来賓紹介 福岡県会議員、宗像市市会議員  
福岡県文化財保護課、福岡教育大学など  
・来賓挨拶 代表して、福岡県教育庁総務部  
文化財保護課長兼副理事が挨拶



上:宗像市長挨拶  
下:実行委員長挨拶(田熊石畑遺跡村づくりの会村長)

### 式典終了

宗像ジュニアブラスによるファンファーレと演奏  
・線路は続くよどこまでも  
・聖者の行進など

宗像ウインドアンサンブル

・勇気100%  
・君の瞳に恋してる  
・風になりたい など

九州管楽合奏団 五重奏

・森のくまさん  
・ずいずいずつころばし  
・アメリカンパトロールなど  
・楽器のお話

市民参加方ミュージカル  
むなかた三女神記

まりこふんショウ 歌とトーク

古代人をイメージした衣装で歌うまりこふんさん。観客もメロディーに合わせて手拍子でノリノリ。

9月23日に行われる公演にむけて練習中のメンバーによる演舞



ユニークな名前のまりこふんさんは、「古墳にコーファン協会」をつくり会長に就任、古墳をテーマに歌う日本てただ一人の古墳シンガーです。

厳しい暑さのなかで歌い終え、最後の曲になると舞台から降りて観客席を一周しながら歌い舞台に戻って行きました。後で

ご本人聞いてみると、観客のみなさんの熱い声援に思わず舞台から降りてしまったそうです。この暑さもステージにあがると感じなかったという事でした。



歌が終わリステージではトークショーが始まりました。出演はまりこふんさん、古墳にコーファン協合理事長・伊藤壮さん、西日本新聞宗像支局長・今井知可子さんの3人です。トークは盛り上がり、話題が次から次へと進展、司会者の制止の合図が無ければ延々と続き、楽しい時間はいつまでも終わらない



左:西日本新聞宗像支局長・今井さん、  
中央:古墳にコーファン協会・伊藤理事長  
右:まりこふん会長

ほどでした。

後ほど今井さんに感想を聞くと、

「古墳から引き離されて博物館に展示されている埴輪をみるとかわいそうに思う」  
「まず、現地へ行って古墳に会って自分の感性でうけとめる」

と言う。

こんな、まりこふんさんの感性に心打たれました。また会いたいひとですね！

## いせきんぐミステリー抽選会

「弥生人をさがし、クイズに答えて抽選券をゲットしよう」

園内で弥生人(貫頭衣を着て勾玉の首飾りをつけた)を見つけてクイズに答え、全問正解者は、1〜3等があたる抽選券を受け取る。まちがった方は4等以下があたる抽選券を受け取る。他にまりこふん賞が3本あり古墳グッズがあたる。後程、ステージにて抽選会を開催し、村づくりの会山田村長とまりこふんさんが抽選を行った。

答えたのは親子づれが多く、はずれなしの子どもにやさしい抽選会でした。このほか園内では特設テントが設置され、多くの催しがありました。

## 歴史体験学習

福岡教育大学学生もボランティア実習として参加しました。

### ・原始機

手織りの機を使用。毛糸で縦糸と横糸を編んでコースターをつくる。



### ・土器パズル

弥生土器の破片をつないで完成する作業が意外に難しい



### ・弓矢体験

広い芝生の上で、仮想ハンターになる。幼児には持ち方から指導。大人気の弓矢体験には、子どもたちがひっきりなしにおとずれ、的のイノシシやシカをめがけて矢を放つ。あたる大歓声上がる。



### ・勾玉づくり

古代人の装身具・勾玉はやわらかくて削りやすい滑石をつかって作



る。幼児にも人気がある。

## 世界遺産ブース

### ・ナギヒコシール

海人は刺青をしていたという魏志倭人伝から引用した紋様。水でシールを濡らして腕に張り付ける。



ナギヒコは『海の民宗像』(宗像市刊行)に登場する宗像海人の子ども。



「どれにしようかな」

### ・タイムカプセル受付

受付のテント横では、10年後の自分宛にメッセージを書いてもらい、カプセルに入れて埋納します。10年後にふたたび本人が読むことができます。

乳児と母親の二人も、記入して「10年後が楽しみです」と話していました。来場者全員にマスコットキャラクター「東郷やよいちゃん」が描かれたカンバッジが手渡されました。



## ・日赤九州国際看護大学学生によるボランティア活動



上：聴診器による音を聞くコーナー  
下：看護大学を紹介するコーナー

このほかにも次のコーナーが設けられました。

- ・空気銃づくり
- ・プラバンづくり
- ・紙飛行機づくり
- ・バルーンアート
- ・割れにくいしゃぼん玉づくり
- ・べっこうあめ



左利：べっこうあめづくり 中央：紙飛行機づくり 右：バルーンアート

ボランティア学の実習として参加した大学生の感想は、  
「イベントの開催は大変だと感じた。準備はもちろんのこと開催中のハプニングなど、予定通りに行かないことが多くあり難しいと思ったが、子ども達の笑顔をたくさん見ることができ、大変ながらも楽しさを感じた。機会があれば、是非参加したい。」

イベントには、福岡教育大学と日赤九州国際看護大学の学生68名が参加しました。

## 寄合い処

海の道むなかた館出張博物館  
実物大に復元された弥生の銅剣を持ってみよう。細身の剣は見た目より重いという実感でした。



上：弥生時代の食事を再現したレプリカ  
右：復元された銅剣のレプリカ



## ・史跡整備報告会

「市民と楽しむ歴史公園づくり」  
宗像市文化財担当者

「整備報告会では、田熊石畑遺跡が日本の国の成り立ちを説明するために重要な遺跡であることや弥生ムラを市民参加で楽しみながらつくり上げようという整備方針について、一般向けにわかりやすく説明していました。聴衆も熱心に耳を傾けていて、質疑応答もありまし

た。」

## 田熊山笠追い山

午後3時、イベントの最後は、勇壮な飾り山がいせきんぐ通りを走り抜ける田熊山笠の追い山です。



おわりに

宗像市、東郷コミュニティ、大学、田熊石畑村づくりの会の連携によるイベントは終わりました。極暑にも負けずこの日の来園者はおよそ3200人、出店は16店舗。人も空気も暑かった1日が終わりました。来園者のみなさん、出店者の皆さんもお疲れ様でした。

四塚や許斐山が見え、緑の芝生に覆われた広大な公園は宗像の自然が体感できる場所です。

散歩や遊び、歴史にもふれることができるいせきんぐへ、どうぞお出かけください。年中無休です。

開園時間については、下記へお問い合わせください。

田熊石畑村づくりの会  
電話・FAX 0940-37-0182

(記事：むなかた電子博物館運営委員 平松)

2015年12月21日

## 秋・吉武 八福神佛めぐり

今春・4月18日に行われた「吉武八福神めぐり」が好評で、今回で2回目となる「秋・吉武八福神めぐり」が、10月31日に行われました。

初秋の候、心地よい天候にめぐまれて、吉武、吉留、富地原地区の75キロメートルをおよそ3時間かけて10か所の神社や仏閣を巡りました。

吉武地区の地域おこし団体・八之会が



宮司によるお祓いが行われた



八所宮で安全祈願祭

主催し、吉武地区コミュニティの後援で行われました。事前に参加申し込みを済ませた参加者が125人、お世話する地元のスタッフは50人ほどで、宗像市長をはじめ、県議、市議も参加しました。受付を済ませた後、参加者全員の道中

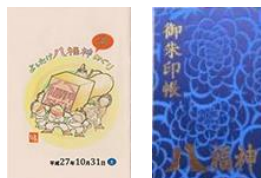
の安全を願い、神様の依代を設けて八所宮宮司により安全祈願が行われ、三々五々出発していききました。  
「いざ行かん ゆきて まだ見ぬご利益に」



八所宮大駐車場に集まった参加者

製の杖、御朱印帖、お福などのお祓いが行われています。

これに先立って、10月24日には八所宮本殿で安全祈願祭がおこなわれ、地域おこし事業の安全と参加者に記念品として渡す、竹



右：番から9番までのお札  
上左：子供たちにはスタンプラリー帳  
上右：御朱印帖  
下：楽しいイラスト入り地図を手に歩く

## 1番 八所宮（宮ノ尾地区）

創立は白鳳時代674年。神代七代八柱の神をまつる、旧カ村の総鎮守府でした。鶴嶋山にあり、社叢は福岡県指定の天然記念物です。毎年10月第3土日に行われる



八所宮参道の石段

秋季大祭は「八所宮のおくんち」として、一時とぎれたもののおよそ300年続いています。深夜に行われる大名行列は荘厳で、一見の価値があります。

## 2番 長宝寺観音堂（宮ノ尾地区）

八所宮境内にあるこの建物は宗像市指定の文化財です。1991年に保存修理が行われ、創建は宝暦3年（1753）で、江戸時代後期の趣を今に伝えています。堂内に安置されている仏像は数体あり、本尊は十一面観音立像で、鞍手町の長谷寺の観音像との共通点が見られ、平安時代前期に作られたものと言われている。

います。

線香の煙と香りがあたりに漂い、手を合わせて参拝する姿があります。



長宝寺観音堂

## 3番 平家塚

平清盛の妻二位の尼の墓といわれています。壇ノ浦の戦いで敗れ、8歳の安徳天皇を抱いて海に沈んでいきました。参加者を笑顔で迎えた麻生ウメ子さんは昭和の始め



平家塚。建物の中に二位

の生まれで、平家塚近くのお家に嫁いで以来、草取りや建物の清掃を続けてこられた方です。

## 4番 福知神社（武本地区）

祭神はイザナギ、イザナミの命の子で、保食神 五穀、農耕の神様です。



素朴な福知神社と本社

## 5番 福知神社（久戸地区）

祭神は保食神。豊作や、豊かな食文化を司る神様。



久戸・福知神社前の御朱印帖記帳所



武本・福知神社前で御朱印帖に記帳

## 6番 武守神社（久戸地区）

祭神は素戔鳴命・櫛稲田姫神 創立 延喜18年（918） 由緒 崇神天皇御宇、出雲国の飯入彦が勧進、武の一字をとり、武丸村と号す。



神社には「白ナマズの恩返し」という、雨乞いにまつわる民話があります。

## 7番 大日堂（久戸地区）

再建された大日堂には、大日如来坐像が安置され参拝者を迎えていました。檜

の一本造で、彩色も残る、貴重な仏像です。宗像市指定文化財。

大日如来を古代インドでは「太陽の子」といい、太陽の輝きを超越した最高の仏とされています。



中央が大日如来像

ガードレールに干された稲のそばを通って愛宕神社へ向かいます。



上：スズメ除けのテープが風になびいていた  
下：道中に掲げある応援メッセージ。今回は吉武小学校児童とのコラボ

## 8番 愛宕神社（富地原地区）

祭神 宗像三女神 カグツチの命 カシコネの命



威厳のある愛宕神社

由緒 天慶3年（940）宗像大宮司氏男創立。筑前国続風土記拾遺で

は太郎坊神社とある



上：目を引く鳥の彫刻  
下：拝殿には、彩色も鮮やかな  
5/11/17

## 9番 正助廟（土師上地区）

しょうすけやう  
はじかみ

武丸の正助さんは、江戸時代に孝子として知られた人。親孝行、弱者へのいたわり、助け合いなど、庄助さんの行いは、現代社会においてもお手本となるものです。

疲れた体も応援メッセージに励まされて、コースの最後となる早川勇記念碑まで歩きます。



正助廟



本堂



## 10番 早川勇記念碑

幕末から明治時代にかけて活躍した早川勇は、薩長和解を提唱し、五郷西遷に奔走しました。晩年は東京に住み郷土の若者の育成に尽力しました。



吉武コミセンの近くにある早川勇顕彰碑

吉武コミセンの近くにある早川勇顕彰碑  
出発点の八所宮大駐車場へ帰着後、それぞれに解散しました。

参加者に伺いました。  
宗像市長

「宗像市には歴史ある神社仏閣が多くあり、八所宮もそのひとつです。市としても、このような遺産を大切に、広く情報の発信をしていきたいと思っています。」

吉武小学校校長

「八福神めぐりが行われる2週間前の10月15、16日に吉武小学校では

「セカンドスクール」が行われました。妙見の滝→八所宮→長宝寺→大日堂→新立山登山→平山天満宮と歩き、グロバルアリーナで一泊しました。

実は八福神めぐりに学校も何か協力できないかと考えていた時に、地域の方から、コース途中の看板のメッセージを子どもたちに書いてもらえないか？という依頼が寄せられました。そこで、セカンドスクールで校区を巡った後に、自分だったらどんな励ましの言葉をもらいたいか考えさせ、当日の応援メッセージができました。  
これからも、地域の行事や活動に子どもたちがどう関わることができるかを、学校でも考えていきたいと思います。」

山間にある吉武地区は、宗像市の水源である釣川源流があるところ。また、それぞれの地域には人々が守り伝えてきた神社やお寺が、素朴な姿のまま残されています。地域おこしの一環として開催されたこのウォーキングは、心身に心地よいものでした。また、福をよんで、明日からの活動が楽しいものとなればいいですね。

お問い合わせ

吉武地区コミュニティ 電話 32-590

4

（記事：むなかた電子博物館運営委員 平松）